

十一月例会記事

去る十一月十八日(土)13時より花山天文臺にて開催さる。この日生駒山上に獅子座流星群観測に出張中であつた山本先生並びに筆者は流星観測極大日の良好な成果を納めて、早暁一睡もせず朝霞の海に沈んでゐる民家を見下しつゝ山上を下り、急いで歸臺する。愈々開會を前にして岡山より近畿行脚の途にあつた水野副會長が久方ぶりで來臺され例會を意義あらしめられる、又静岡より何時も天界の口繪でお馴染の清水眞一氏が出席される、或は遠く香川縣より參集された熱心な會員もあり、定刻には、市内の小學校教員達の團體聴講もあつて會場は滿員の盛況、やがて池田政晴氏の司會によつて開會され、水野副會長の挨拶あり、此處で折柄の流星観測概況の報告を行ふ、小山理學士は立つて花山に於ける観測概況を、續いて筆者は生駒に於ける概況を述べる。唯南紀出張観測隊よりの報告は未着のため遺憾に終る、次いで講演に移る、山本博士の「保井春海の天文學」は參集者を大いに傾聴せしむるものがあつた。即ち保井春海は我邦に於ける世界に誇るべき獨歩の數學や天文學の偉業を遺してゐる事、然かも當時の世人には餘りにも冷遇されてゐた學者であつた事等々で、當時の珍しい資料の二三を示されつゝ偉大なる業績をその來歴と共に精細解説されて意義ある講演は終つた。最後に池田氏はこの續學を記念するべく花山道路の一部にその名を留められん事を提案して閉會する。夜は幸ひ快晴のため例により天體觀望公開で賑つた。(高城記)



編輯だより

先づ新年頭の御挨拶を申上げる。そして讀者諸氏の健康と本會の發展を天上の「星座」に祈らう、例によつて水野千里氏は千支や勅題に因んだ星座で本誌上を飾られる。目新しい記事として、今後「ロ・マの天文欄」を開設し(Vの字)氏に御執筆を煩はす事にした。讀者欄は色々な意義を以つて發展してゐる、會員相互の誌上交信、意見發表、批評、等々讀者諸氏の御利用を待つてゐる。(御希望の方には御申越次第原稿用紙を御送りします。)本誌一月號に載せる積りの原稿で紙數の都合上止むを得ず二月號に延した執筆の方々には深くお詫び致します。(T. T. 生)